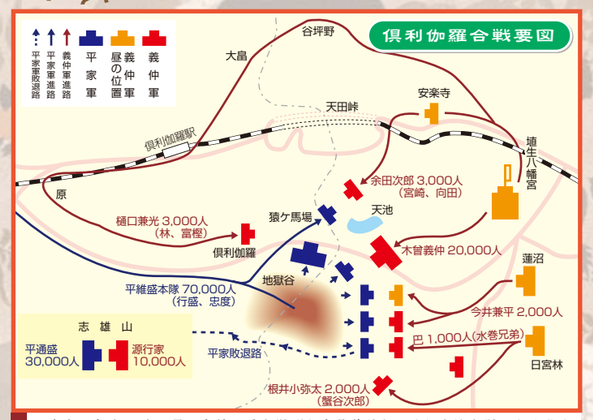
## 響き渡る義仲軍 鬨の声




寿永２年（1183）５月、木曽で兵を挙げた木曾義仲と、それを迎え討つため北上した平維盛が砺波山において源平倶利伽羅合戦を繰り広げた。そのとき義仲は、埴生八幡宮に戦勝祈願文を奉納し、夜陰に乗じ、鬨の声をあげ五百頭の牛の角に燃えさかる松明をつけ平家めがけて突入。

不意をつかれた平家の軍勢は、あわてふためき、十余丈の倶利伽羅谷へなだれのように落ち込んでいった。これが倶利伽羅合戦「火牛の計」である。

●源平倶利伽羅合戦図　屏風（石川県津幡町竹橋・倶利伽羅神社蔵）

OYABE
小矢部市マンホールキャラクター
メルギューくん

# 義仲と巴

響き渡る義仲軍 鬨の声

マップ

見て来て体験 メルヘンおやべ
富山県 小矢部市

## 交通アクセス

### ●空路

※小松・富山空港より北陸自動車道「小矢部インターまで約40分

| 小松空港 | | 富山空港 |
|---|---|---|
| 約１時間 | 東京 | 約１時間 |
| 約1時間30分 | 札幌 | 約1時間20分 |
| 約１時間 | 仙台 | |
| 約１時間 | 静岡 | |
| 約1時間15分 | 福岡 | |
| 約２時間 | 那覇 | |

### ●高速道路

東京 ―（約３時間 関越自動車道）― 長岡 ―（約2時間30分 北陸自動車道）―
名古屋 ―（約２時間30分 東海北陸自動車道）―
名古屋 ―（約１時間 名神高速道路）― 米原 ―（約２時間 北陸自動車道）―
大阪 ―
小矢部インター

### ●列車

| | | |
|---|---|---|
| 東京 | 約４時間 上越新幹線と特急 | JR石動駅 |
| 名古屋 | 約３時間30分 特急 | |
| 大阪 | 約３時間20分 特急 | |

### ●タクシー

■石動タクシー TEL（0766）67-1133
■小矢部交通 TEL（0766）67-1212
■津沢タクシー TEL（0766）61-2045

**お問い合せ**

**小矢部市観光振興課**
〒932-8611 富山県小矢部市本町１番１号
TEL.(0766)67-1760 FAX.(0766)67-1567
http://www.city.oyabe.toyama.jp/
E-mail kankou@city.oyabe.toyama.jp

**小矢部市観光協会**
〒932-8611 富山県小矢部市本町１番１号
TEL.(0766)30-2266 FAX.(0766)67-1567
http://oyabe.info/
E-mail oyabe.kankoukyoukai@bloom.ocn.ne.jp

## 埴生護国八幡宮周辺

## 倶利伽羅にちなんだ年中行事

**歴史国道イベント**

４月下旬
埴生護国八幡宮～倶利伽羅峠

**「倶利迦羅さん八重桜まつり」**

4月28日～５月５日
倶利伽羅峠

**倶利迦羅さん念仏赤餅つき**

４月28日・29日
倶利迦羅不動寺（津幡町）

**源平火牛祭り**

７月下旬
石動商店街・埴生護国八幡宮

**宮めぐりの神事**

９月中旬
埴生護国八幡宮

**源氏太鼓**

９月10日
下後亟神明宮

### 倶利伽羅八重桜

倶利迦羅不動寺に通じる道路の両脇に7,000本余りの八重桜の並木が続き、毎年ゴールデンウィークの頃になると、花が満開となり、連日観光客で賑わいます。
もともと植樹したのは“昭和の花咲かじいさん”と呼ばれた高木勝己さん。倶利伽羅峠で事故にあい、奇跡的に助かった高木さんが恩返しにと植樹を始めました。

## 木曾義仲とはどんな人物？ ～義仲と巴御前の悲運の生涯～

### ～木曾義仲《年表》～

| | |
|---|---|
| 1154年（久寿元年） | 駒王丸（後の義仲）武蔵国（今の埼玉県）に生まれる。 |
| 1155年（久寿２年） | 駒王丸の父 義賢が源義平に討たれる。 |
| | 駒王丸、母と木曽の中原兼遠のもとに逃れる。 |
| 1156年（保元元年） | 保元の乱 |
| 1159年（平治元年） | 平治の乱（平清盛が権力を握る） |
| 1166年（仁安元年） | 駒王丸、元服して木曾次郎義仲を名乗る。 |
| 1180年（治承４年） | 平家の横暴に対して以仁王が平家追討の令旨を全国にふれまわす。9月、義仲、挙兵する（27歳） |
| 1181年（養和元年） | 義仲、平家方の城氏を横田河原の戦いで撃ち破る。 |
| 1183年（寿永２年） | **5月、義仲、倶利伽羅合戦で奇襲作戦「火牛の計」を用いて平家の大軍を撃ち破る。**7月、義仲、京へ進軍、後白河法皇より「朝日将軍」の称号を賜る。11 月、義仲、後白河法皇と対立、法皇は源頼朝に援助を求める。 |
| 1184年（寿永３年） | 源頼朝、源範頼・源義経を京へむかわせる。義仲、征夷大将軍に任ぜられる。義仲、範頼・義経に攻められ、近江の粟津（今の滋賀県）で討ち死にする（31歳） |

平清盛 ―対立― 源（木曾）義仲 ―従兄弟 対立― 源頼朝 / 源義経

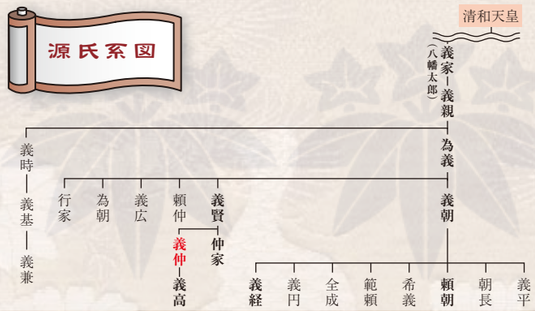
### ■木曾義仲（源義仲）きそよしなか（みなもとのよしなか）

平安時代末期の信濃国（今の長野県）の武将。源頼朝・義経とは従兄弟にあたる。27歳で挙兵。倶利伽羅峠で平家の大軍を破って上洛し、平家を都落ちさせ無血入京を果たす。その後、頼朝が派遣した義経らの軍に敗れ、31歳で討ち死にした。

### ■巴御前 ともえごぜん

その生涯は謎に包まれており、「平家物語」によれば「色白く髪長く、容顔まことに優れたり」という美人で、「強弓精兵、一人当千の兵者（つわもの）」であったという。幼い頃から義仲とともに育ち、義仲挙兵後も女武将として付き従った。
最後の戦いでは、義仲とともに死ぬことを願ったが、義仲に諭され泣く泣く落ち延びていったという。

### 源氏系図




### 1 埴生護国八幡宮 はにゅうこくはちまんぐう

木曾義仲が戦勝を祈願したことで有名。約1300年の歴史をもち、国の指定重要文化財となっている。本殿は素木造りで安土桃山時代の特徴を現し、また釣殿等には江戸初期の様式が残され、加賀藩前田家の寄進によるもの。宝物殿には、歴史上貴重な数々の古文書や文具が納められている。
小矢部市埴生 2992（TEL.0766-67-1220）

### 2 鳩清水 はとしみず

義仲が八幡宮祈願の折、白鳩の飛来があり、その案内で源氏軍勢が清水を得たと伝える「鳩清水」の滝を水源にしている。「とやまの名水」に指定。

### 3 源義仲騎馬像 みなもとのよしなかきばぞう

昭和58年に源平倶利伽羅合戦800年記念として建立したもの。像の重量だけで5トンもあり、馬上の人物像としては日本最大級のものである。

### 4 各務支考の句碑 かがみしこうのくひ

～白鳩の 木末に涼し 神の御意～
松尾芭蕉の弟子で十哲の一人といわれた各務支考が詠んだ。

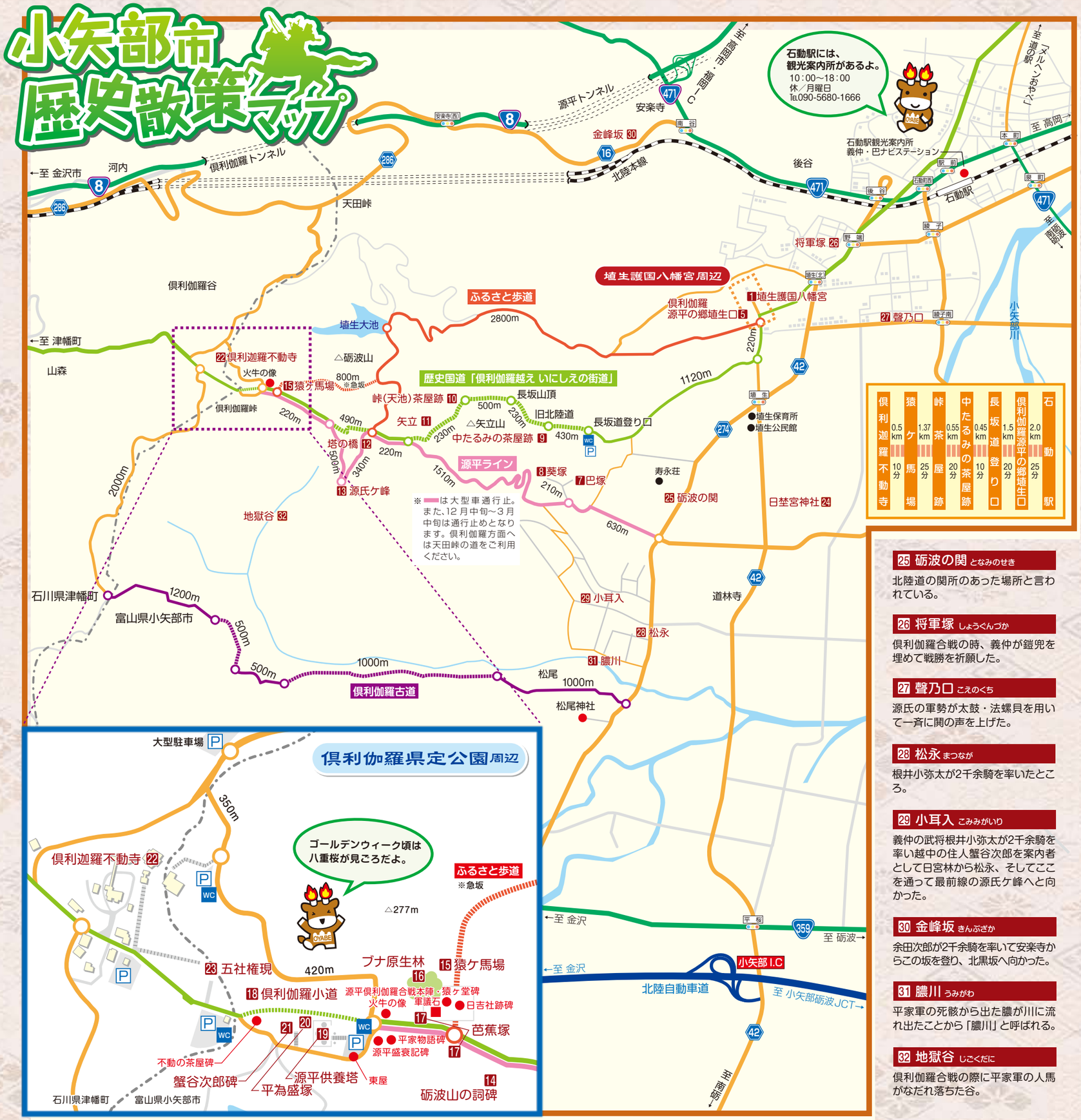
### 5 倶利伽羅源平の郷埴生口 くりからげんぺいのさとはにゅうぐち

「歴史国道」の案内休憩施設。倶利伽羅峠について楽しく学ぶことができる遊学塾。
小矢部市埴生 2996-5（TEL.0766-67-5645）
㊋ 9：00～17：00　㊡第3月曜日

### 6 義仲進軍路碑 よしなかしんぐんろひ

義仲はこの地より昆沙門川を上がり、「太平」を通り進軍したという。

# 小矢部市 歴史散策マップ




## 7 8 巴塚・葵塚 ともえづか・あおいづか

巴、葵は共に義仲の愛妾であり、勇敢な武将でもあった。葵は砺波山で討死、巴は色白・美麗、また騎馬乗り・弓矢の達人で一騎当千の活躍をしたという。

## 9 中たるみの茶屋跡 なかたるみのちゃやあと

古来より北陸道を通る人が砺波平野を見渡し、中休みしたところ。

## 10 峠(天池)茶屋跡 とうげの(あまいけ)ちゃやあと

昭和の初め頃まで茶屋のあったところ。

## 11 矢立 やだて

矢立山周辺は、義仲軍の最前線であった所。幅300m程の谷を隔てた塔の橋より平家軍が矢を放ち、ここに多くの矢が立ったことが“矢立山”の名の由来。

## 12 塔の橋 とうのはし

平家軍の最前線だったところ。矢立山の今井兼平軍に矢を放った場所。

## 13 源氏ケ峰 げんじがみね

倶利伽羅合戦において、平家軍陣地だったこの峰を義仲軍が占領したので、この名がつけられたという。

## 14 砺波山の詞碑 となみやまのしひ

儒学者木下順庵と加賀藩の学者富田景周の火牛の戦法をたたえた詞の碑。

## 15 猿ケ馬場 さるがばば

倶利伽羅合戦のとき、平家の総大将平維盛が本陣を布いたところ。ブナ林の中に軍議石と本陣跡標柱、その奥には伝説の猿を祀った猿堂がある。

## 16 ブナ原生林 ぶなげんせいりん

市指定天然記念物。高山植物である「ぶな」が250m程の低所に自生している珍しい林。

## 17 芭蕉塚 ばしょうづか

～義仲の 寝覚めの山か 月悲し～

松尾芭蕉が義仲に想いを馳せ、越前燧ケ城で詠んだ句であるが、義仲の最も輝かしい勝利を納めた倶利伽羅古戦場のことを詠ったともいわれる。

## 18 倶利伽羅小道 くりからこみち

当時の面影を残す旧北陸道跡。

## 19 源平供養塔 げんぺいくようとう

高さ 6.8m の五輪塔。合戦において犠牲となった源平両軍の兵士の霊を弔うため、昭和49年に建立され、毎年5月12日に法要が営まれている。

## 20 平為盛塚 たいらのためもりづか

平為盛は、総大将維盛の部将として戦ったが、義仲軍の夜襲により敗走。翌日夜が明けるとともに手兵50騎を率いて義仲軍に逆襲して来たが、義仲の部将樋口兼光により首をはねられた。この勇健な武将を弔って建てられたもの。

## 21 蟹谷次郎碑 かんだのじろうひ

義仲軍の先導を承った郷土の蟹谷次郎を讃え、源氏太鼓保存会が建立した。戦勝を祝って打ち鳴らした勝鬨太鼓が「源氏太鼓」として伝承された。

## 22 倶利迦羅不動寺 くりからふどうじ

小矢部市と石川県津幡町との境界に位置する日本三大不動の一つ。奈良時代初期の養老2年（718年）に、中国から渡来したインドの高僧、善無畏三蔵が北陸路巡錫の際、砺波山山中に棲み村人や旅人に災いをかける魔物を倶利迦羅竜王を勧請して退治し、その不動明王を祀った。このことからこの地を倶利伽羅と呼ぶようになったという。

石川県河北郡津幡町倶利伽羅リ－２
TEL.076-288-1451

## 23 五社権現 こしゃごんげん

手向神社の末社。不動明王は長楽寺（現不動寺）に祀られたので、四社となっている。

## 24 日埜宮神社 ひのみやじんじゃ

今井兼平が先遣隊保科党を遣わして、源氏の白旗30梳を打ち立てて、砺波山にいた平家軍に「源氏は大軍なり」と心胆寒からしめた“日宮林”の一部。

## 25 砺波の関 となみのせき

北陸道の関所のあった場所と言われている。

## 26 将軍塚 しょうぐんづか

倶利伽羅合戦の時、義仲が鎧兜を埋めて戦勝を祈願した。

## 27 聲乃口 こえのくち

源氏の軍勢が太鼓・法螺貝を用いて一斉に鬨の声を上げた。

## 28 松永 まつなが

根井小弥太が2千余騎を率いたところ。

## 29 小耳入 こみみがいり

義仲の武将根井小弥太が2千余騎を率い越中の住人蟹谷次郎を案内者として日宮林から松永、そしてここを通って最前線の源氏ケ峰へと向かった。

## 30 金峰坂 きんぶざか

余田次郎が2千余騎を率いて安楽寺からこの坂を登り、北黒坂へ向かった。

## 31 膿川 うみがわ

平家軍の死骸から出た膿が川に流れ出たことから「膿川」と呼ばれる。

## 32 地獄谷 じごくだに

倶利伽羅合戦の際に平家軍の人馬がなだれ落ちた谷。